

計画小委員会活動報告

計画小委員会
小委員長 松下 潤

1. 小委員会の目的

戦後の60年、急速な経済成長と人口流入を背景として大きな成長を遂げてきたわが国の地域・都市は、今後、徐々にその変化の振れ幅を狭めつつ、安定し、成熟した地域形成へと向かうものと考えられる。国土交通省の社会資本整備審議会では、コンパクトな都市づくりが提言されている状況にもある。これからの時代は、環境的、経済的、財政的な制約のもとで、また限られた空間の中で、高密度な社会を営むべきわが国にとって、豊かで活力ある地域・都市を形成するために、地下空間の有効かつ計画的な活用はますます重要な課題であると考えられる。

計画小委員会は、こうした視点から、都市空間の再編や都市の再生に結びつく地下空間利用の計画システム、事業システム及び費用対便益や価値評価システム等の確立を目的として研究活動を行っているところである。

2. 研究内容

2.1 テーマ

- (1) 海外事例にみる地下空間利用の事業システムの分析及び有用性に関する評価
- (2) 鉄道の地下埋設事例にみる地上空間を含めた地下利用の事業化システムの分析及び有用性に関する評価
- (3) 既存の地下空間利用施設の改善、ネットワーク化に関わる事業システムの分析、及びユニバーサルデザインに関わる設計手法の検討

2.2 基本方針

計画小委員会では、これまで、(1)では、海外事例としてボストン・ビッグディッグプロジェクトを取り上げ、地下空間利用の事業システムの分析と高速道路地下埋設後の上部空間利用計画の追跡調査を行ってきた。今後は、上部空間を含めた地下空間利用の有用性の評価に関する研究を進める。(2)では、シオサイトのゆりかもめ線を含めた地下空間利用における公民協働の仕組みについての分析をふまえ、東京都における鉄道高架事業と地下埋設事業の実態調査及び今後の鉄道計画に関するヒアリング調査を行い、地上空間を含めた地下利用の事業化システムの検討を行う。また、(3)では、東京駅等の鉄道ターミナル駅の地下空間利用の実態調査やヒアリング調査を行い、これらの地下空間利用施設の改善やネットワーク化及びユニバーサルデザインに関わる問題点を把握する。

以上、必要なデータベースの蓄積とモデル的な計画論を構築、提案する観点から、特に道路・鉄道のインフラに関連する事例研究から研究課題にアプローチすることとする。

2.3 研究体制

当面は、全委員による情報・資料の収集を中心とした活動を行い、必要に応じてワーキンググループの編成を検討する。

2.4 スケジュール

活動内容 / 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度
1)情報・資料の収集整理	←→		
2)事例の調査・研究		←→	
3)課題の抽出，具体的分析研究		←→	
4)成果とりまとめ			←→

3．活動経過

平成 18 年 2 月 23 日 第 3 回小委員会

- ・地下空間利用事例の調査分析方法について

平成 18 年 4 月 13 日 第 4 回小委員会

- ・研究活動フレーム案について
- ・事例報告：地下鉄 13 号線等

平成 18 年 6 月 9 日 第 5 回小委員会

- ・ヒアリング計画について
- ・事例報告：小田急線等

平成 18 年 9 月 14 日 第 6 回小委員会

- ・講演：東京都の地下連続立体交差事業

平成 18 年 11 月 16 日 第 7 回小委員会

- ・講演：東京における鉄道の整備計画（地下利用を含む）の現状と課題

4．委員名簿

役職	氏名	勤務先	役職	氏名	勤務先
委員長	松下 潤	芝浦工業大学	委員	古賀 大陸	日本技術開発(株)
委員	浅野 光行	早稲田大学	委員	清木 隆文	宇都宮大学
委員	市川 公映	東京都	委員	西 淳二	NPO ジオグラフ・フォーラム
委員	遠藤 薫	(独)都市再生機構	委員	宮鍋 伸一	(株)近代設計
委員	大熊 久夫	(財)計量計画研究所			
委員	岸井 隆幸	日本大学	幹事	小林 正典	西松建設(株)
委員	工藤 康博	(株)三菱地所設計	幹事	村田 哲哉	(株)ドーコン